

佐和山の自然 ウォッチングガイド

タカの渡り

サシバ、ハチクマなどタカの仲間の夏鳥は、春に南の地域から渡ってきて日本で繁殖し、秋には南の地域に渡って越冬します。佐和山はタカの渡りのルート上の一つのポイントにあたり、9月中旬から10月初旬にかけて多くのタカを観察することができます。

渡りをするタカは、上昇気流に乗って旋回上昇し、飛翔高度を高くしてから滑空します。佐和山は、南下の目印となるとともに上昇気流ができやすく、多いときには100羽を超えるタカが一斉に旋回上昇するタカ柱が見られることもあります。サシバは、ハチクマよりやや小さいので見分けがつかず。

他に佐和山では、ハヤブサ、チゴハヤブサ、オオタカ、チョウゲンボウ、ミサゴ、ノスリなどの猛禽類も見ることができます。

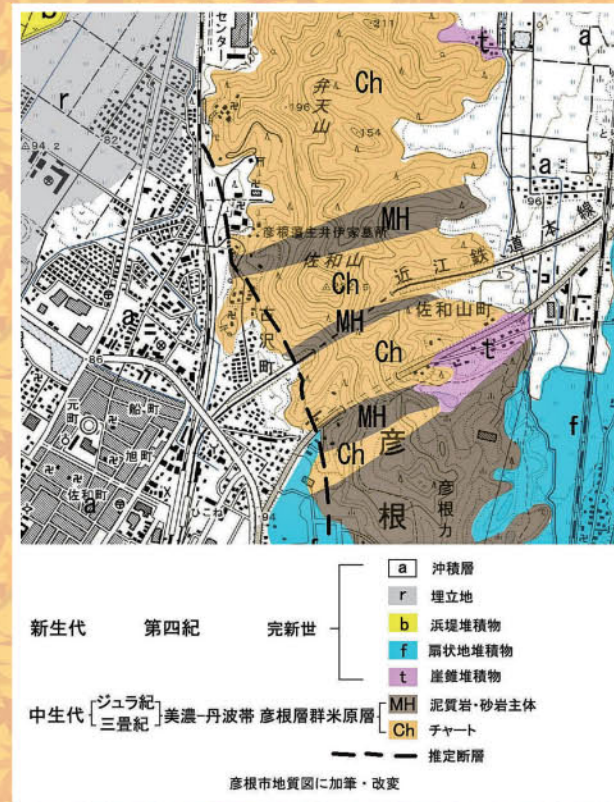


佐和山の地形と地質

佐和山周辺の地形は主に傾斜が10°～20°の斜面を持つ山地(中間斜面山地)です。地質は「美濃-丹波帯」に属し、主に中生代ジュラ紀に付加したとされる彦根層群米原層と呼ばれている堆積岩類の地層で、種々の年代を有する多種類の岩層(砂岩、泥質岩、玄武岩、チャート、石灰岩等)が大小のブロックとして含まれている混在岩(専門用語で「メランジュ」という)から構成されています。

チャートからは、「コノドント」と呼ばれる化石の破片が確認されており、古生代ペルム紀(約2億9千万年～2億5千万年前)から中生代三畳紀(約2億5千万年～2億年前)頃に堆積したものと推定されますが、それを取り囲む泥質岩本体は中生代ジュラ紀中期頃(約1億7千万年前)に堆積し、プレートの動きにより付加体(海洋プレートが海溝で大陸プレートに沈み込むとき、その堆積物がはぎ取られ、陸側に付加したもの)となったと考えられています。なお、佐和山南方の多賀町に分布する彦根層群の黒色泥岩からは、ジュラ紀中世から新世前期を示す放散虫化石が見つっています。また、米原層のチャートには、マンガンを多く含む鉱床が多くあり、そのいくつかはマンガン鉱山として稼働していたのですが、現在では全て閉山してしまいました。

新しい時代の堆積物としては、谷間の一部には、崖錐堆積物が点在しています。そして、琵琶湖方面に広がる周りの低地は、いずれも新生代第四紀完新世の堆積物です。



フィールドマナー(自然観察時のお願い)

- ① 野外活動、無理なく楽しく
ゆとりを持った計画で、安全に自然に親しみましょう。
- ② 採集はしない、自然はそのままに、文化財を大切に
動植物の採集、採取はご遠慮ください。とつていいのは写真だけです。
- ③ 静かにそっと
大きな声や音は立てず、そっとやさしく観察しましょう。
- ④ 危険な動物に注意
スズメバチ、マムシなどに出くわしたらそっと離れましょう。
- ⑤ ゴミは出さない、すてない
ゴミは必ず持ち帰る。一人ひとりの心がけで美しい自然を守りましょう。

彦根市キャラクター ひこにゃん



彦根城オニバスプロジェクトの
マスコットキャラクター
彦鬼(げんき)くん、美鬼(みき)ちゃん



佐和山の自然ウォッチングガイド

https://www.city.hikone.lg.jp/kakuka/shimin_kankyo/5/2_2/9/sawayama/index.html

編集・発行

彦根市、快適環境づくりをすすめる会
彦根自然観察の会
令和6年3月発行



伊吹山



彦根駅からの佐和山



大洞弁財天



佐和山から彦根市街



清凉寺



井伊神社

佐和山の自然と歴史

佐和山は、彦根市の北東、彦根城から東に約2km離れた場所に位置する標高232.9mの山です。東山麓には東山道が南北に走り、西山麓は干拓前の松原内湖に面し港が築かれ、古くから交通の要所であり、この山頂部分の本丸を中心に佐和山城が築城されました。

佐和山城の歴史は古く、鎌倉時代初期、近江源氏・佐々木定綱の六男時綱が築いた砦が始まりとされ、その後六角氏と京極氏の攻防の境目となりました。戦国時代の後半に浅井氏が佐和山城を支配下におき、16世紀末には織田信長の配下の丹羽長秀が入城しました。天正18年(1590年)、豊臣秀吉の奉行をしていた石田三成が城主となり、山頂に5層の天守を築きました。関ヶ原の合戦後は井伊直政が一時的に入城しましたが、城を彦根山に移築することとなり、慶長11年(1606年)完成した彦根城に直政の嫡子の直継が移ったことに伴い

佐和山城は廃城となりました。この際、石垣などが撤去されたため、城跡には一部の遺構のみ残っています。

その後、山麓には井伊家にゆかりのある大洞弁財天、清凉寺、龍潭寺、井伊神社などが創建されました。佐和山の山林は何度も伐採を重ねたため、現在はアカマツの二次林として雑木林となり、陽地性の植物相を現しています。クルマシダやタラヨウ、リンボク、モッコク、カクレミノといった暖地性の植物が多く生育し、イワカガミやナナカマドなどの冷温帯性の植物も多く確認されていました。また、キヌガサタケ、ツチグリ、アミガサタケなどキノコの仲間も多く見られます。昆虫や鳥たちも多く生息し、タカの渡りの季節にはしばしば佐和山上空にタカ柱が見られるなど、たくさんの自然に親しむことができます。

佐和山の自然ウォッチングマップ



コ克蘭
花の色が黒く、葉は2、3枚根元につき、ゆがんだ広楕円形で、前年の茎が枯れずに残ります。



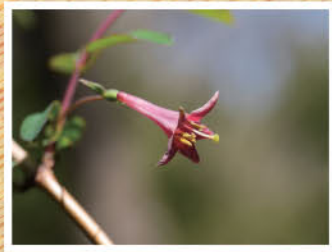
アケボノシュスラン
花の色を夜明けの空に例えて、アケボノと名がついています。



キッコウハグマ
葉の形が亀の甲羅に似ていて見つけやすいです。花は白い扇のような形です。



コバノミツバツツジ
落葉低木。春先にピンクの花が咲くのでよく目立ちます。



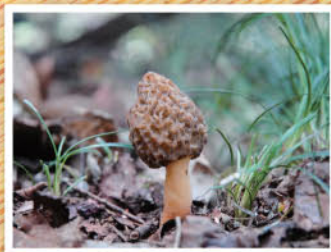
ヤマウグイスカグラ
落葉低木。花は4~5月に、枝先の葉腋に漏斗状の淡紅色で下向きに咲きます。



ヤマザクラ
葉の先が長く尖っていて、葉と花が同時に展開します。花は淡紅色です。



ヤブツバキ
2月から4月にかけて赤い花が咲きます。葉は表面に光沢があります。



アミガサタケ
黄土色で、不規則なハチの巣状の深くくぼんだ編目状が特徴のキノコです。春に広葉樹林などで見られます。



キノガサタケ
白いレース状のマントを垂らす「きのこの女王」です。悪臭を放って虫を誘引します。梅雨期と秋に竹林で見られます。



ツチグiri
みかんのような形の茶色く丸いキノコで、外皮が8~11片に裂けて星形に開くのが特徴です。夏から秋に林縁の土の上に見られます。



アサギマダラ
春と秋に1000km以上の旅をするチョウです。彦根では10月頃に見られ、ヒヨドリバナの蜜を吸いに集まってきます。

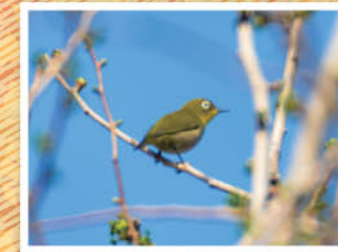


◇夏鳥、冬鳥について

夏、南の国から日本にやってくる鳥を「夏鳥」、冬に北の国からやってくる鳥を「冬鳥」、春と秋に日本を通過する鳥を「旅鳥」、一年中日本で見られる鳥を「留鳥」といいます。



サシバ 夏鳥
翼が長く、全体に赤褐色のタカのなかまです。春に日本にやってきて、人里近くの里山で繁殖し、秋には各地で大きな渡りが見られます。



メジロ 留鳥
緑色の小鳥で目のまわりの白が特徴です。枝から枝へと飛び交い、きれいな声でさえずります。



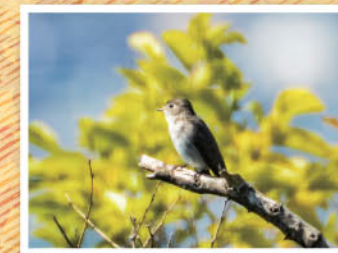
ヤマガラ 留鳥
おなかのオレンジ色が目立つシジュウカラの仲間の小鳥です。枝から枝へと飛び交い、昆虫や木の実をついばみます。



コゲラ 留鳥
白黒のしま模様がある小さなキツツキです。ギイ、ギイと鳴きながら枝から枝へと飛び交います。



エゾビタキ 旅鳥
10月初め頃、彦根城や佐和山、荒神山などで見ることができます。目がくりっとした旅鳥です。おなかのしま模様が特徴です。



コサメビタキ 夏鳥
おなか白く、白っぽいアイリングがある小鳥です。枝の先に止まり、フライングキャッチをよく行います。